

環境活動レポート

2019 年度

活動期間

2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日

発行：2020 年 5 月 18 日

株式会社 芸濃

1.組織の概要

- ① 事業所名 株式会社 芸濃
- ② 代表者氏名 楠井 隆
- ③ 所在地 芸濃リサイクルセンター：三重県津市芸濃町棕本 3550
- ④ 事業内容 産業廃棄物処理業（産業廃棄物収集運搬、中間処理）
土木工事業
上下水道工事業
とび・土工・コンクリート工事業
機械器具設備工事業
建築工事業
- ⑤ 資本 4,000 万円
- ⑥ 沿革 昭和 57 年 11 月 芸濃クレーン創業
昭和 63 年 1 月 株式会社 芸濃 設立
平成 6 年 11 月 産業廃棄物収集運搬許可取得
平成 12 年 6 月 芸濃リサイクルプラント運用開始
平成 12 年 11 月 三重県産業廃棄物処分許可取得
平成 26 年 11 月 三重県産業廃棄物収集運搬優良認定
平成 26 年 11 月 三重県産業廃棄物処分業優良確認
平成 26 年 12 月 岐阜県産業廃棄物収集運搬優良認定
平成 26 年 12 月 滋賀県産業廃棄物収集運搬優良認定
平成 27 年 1 月 愛知県産業廃棄物収集運搬優良認定
平成 29 年 12 月 三重県産業廃棄物処分業優良認定
- ⑦ 事業の規模 ①売上：約 2 億 2000 万円（平成 30 年度分）
②従業員 15 名
③本 社：敷地面積 80 m² 延床面積 80 m²
芸濃リサイクルセンター：
敷地面積 12521 m² 延床面積 75 m²
プラント事務所

⑧ 許認可一覧と許可品目

- ・産業廃棄物関係
別紙A・B参照
積替え保管 なし

⑨取扱い産業廃棄物

産業廃棄物処理の収集運搬実績

年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
廃棄物収集運搬実績（運搬数量）	23125.87 t	37232.02 t	23686.19 t

- ・運搬車両の種類

- ・車両の使用燃料及び排出ガス適合車両数

車種	台数	使用燃料
10 t ダンプ車	7	軽油
4 t ダンプ車	1	軽油
2 t ダンプ車	1	軽油
4 t ユニック車	1	軽油
7 t 脱着装置付コンテナ専用車	1	軽油
4 t 脱着装置付コンテナ専用車	1	軽油
合計	12	
平成 17 年度基準（PM10%低減車）	1	軽油
平成 17 年基準（NO _x ・PM10%低減車）	2	軽油
平成 21 年度基準	3	軽油

別紙 A

項目	県	許可日（更新日）		許可内容	許可番号
		有効期限			
①	三重県	平成 29 年 12 月 4 日 平成 36 年 11 月 27 日		産業廃棄物処分業【中間処理】	第 0 2 4 2 4 0 2 5 0 4 1 号
②	三重県	平成 26 年 11 月 21 日 平成 33 年 11 月 20 日		産業廃棄物収集運搬業	第 0 2 4 0 4 0 2 5 0 4 1 号
③	愛知県	平成 27 年 1 月 28 日 平成 34 年 1 月 27 日		産業廃棄物収集運搬業	第 0 2 3 0 0 0 2 5 0 4 1 号
④	岐阜県	平成 26 年 12 月 17 日 平成 33 年 12 月 16 日		産業廃棄物収集運搬業	第 0 2 1 0 0 0 2 5 0 4 1 号
⑤	滋賀県	平成 26 年 12 月 25 日 平成 33 年 12 月 24 日		産業廃棄物収集運搬業	第 0 2 5 0 1 0 2 5 0 4 1 号

許可品目は別紙 B（次頁）参照

産業廃棄物処分・収集運搬業許可証内容一覧

別紙B 県・市町村 指定有効期限	燃え殻	汚泥(水質を 含まない)	廃油	プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	ゴムくず	金属くず	ガラスくず	鉱さい(水質 を含まない)	がれき類	ばいじん(水 質を含まない)	コンクリートくず	陶磁器くず	ダスト類	その他
三重県(処分 業) H36.11.27迄	○	注1								○ 注2 注8	○	注2 注8		○ 注2 注8	○ 注2 注8		
三重県 H33.11.20迄	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○ 注3 注8	○	注3 注8	○	○ 注3 注8	○ 注3 注8		
愛知県 H34.1.27迄	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	注3		○ 注6	○ 注4	○	
岐阜県 H33.12.16迄	○	○ 注2	○	○	○ 注3	○ 注3	○ 注3	○ 注3	○	○	○	○	○	○ 注8	○ 注5		
滋賀県 H33.12.24迄		注1 注3		○	○ 注3	○ 注3	○ 注3	○ 注3	○ 注3	○ 注3	○ 注3	○ 注3		○ 注3 注6	○ 注3		○ 工作物の新築、改築又は除去に 伴って生じたコンクリートの 破片その他のこれに類する不 純物、石膏含有建築廃棄物を 含む。

注1
注2
注3
注4
注5
注6
注7
注8

無機性汚泥に限る
石綿含有産業廃棄物を除く
石綿含有産業廃棄物を含む
自動車等破砕物を除く、石膏含有建築廃棄物を含む。
自動車等破砕物を除く
工作物の新築、改築又は除去に伴って生じたものを除く。
自動車等破砕物を除く、石膏含有建築廃棄物を除く。
三重県においては
ガラスくず等には「ガラスくず、コンクリートく
ず(工作物の新築、改築、又は除去に伴っ
て生じたものを除く)及び陶磁器くず」を含

・産業廃棄物中間処理実績

年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
廃棄物処理実績（処理総数量）	52049.22 t	64744.84 t	35984.55 t

・中間処理施設の種類及び処理能力

施設の種類	設置場所	設置年月日	処理能力
破砕施設	津市芸濃町棕本 3550 (芸濃リサイクルセンター内)	平成 12 年 6 月 8 日	ガラスくず等 760 t/日 (8h) 鉋さい 1280 t/日 (8h) がれき類 1280 t/日
混練施設	津市芸濃町棕本 6218-1 (芸濃リサイクルセンター内)	平成 23 年 4 月 15 日	鉋さい 345 t/日 (10h) 汚泥 180 t/日 (10h)
移動式 破砕施設	津市芸濃町棕本 6218-1 (芸濃リサイクルセンター内)	平成 26 年 10 月 24 日	ガラスくず等 210 t/日 (10h) 鉋さい 200 t/日 (10h) がれき類 126 t/日 (10h)

・許可品目：

【破砕施設】 ガラスくず等・鉋さい・がれき類

【混練施設】 鉋さい・汚泥

【移動式破砕施設】 ガラスくず等・鉋さい・がれき類

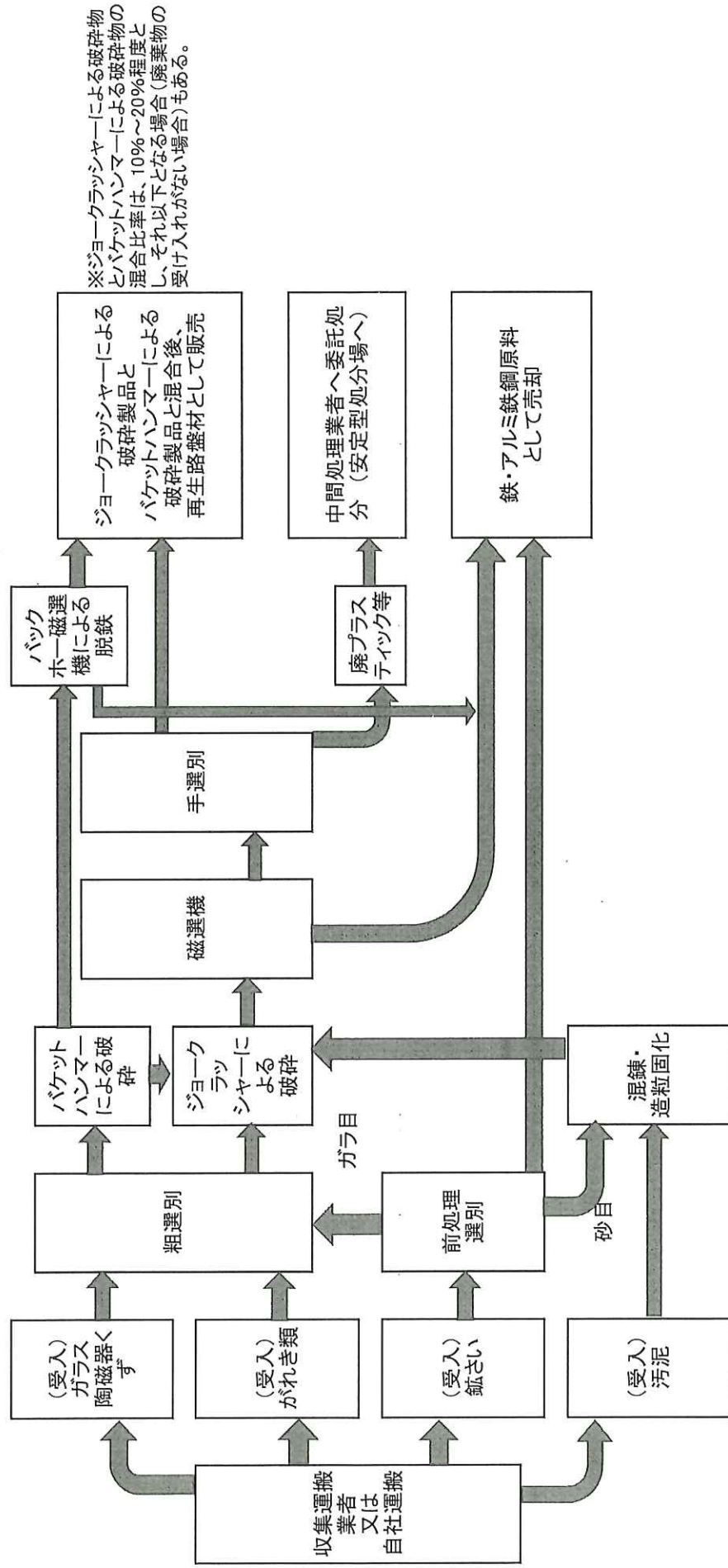
処理工程図

・別紙 C 参照

⑩廃棄物の処理料金

・運搬距離、廃棄物の種類、回収形態等により算出。

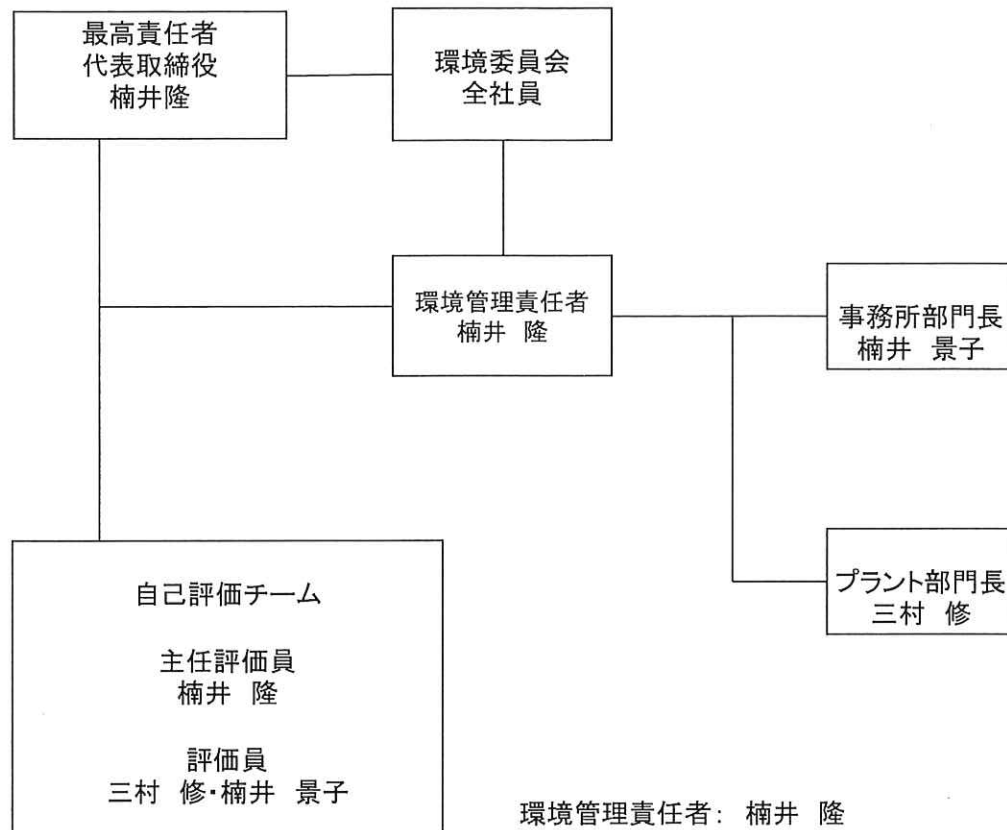
産業廃棄物処理工程図



平成28年3月1日現在

⑪環境活動の取り組み体制

【図－１】 環境マネジメント組織図



環境管理責任者：楠井 隆

TEL:059-265-4044

FAX:059-265-4047

2.登録対象

①登録内容

M・EMS登録証

- ・初回登録日 : 2019年5月1日
- ・登録有効期限 : 2021年4月30日
- ・登録番号 M・EMS2W-0003 KES2W-5-0003

- ②登録の範囲 産業廃棄物処理業（産業廃棄物収集運搬・中間処理）、
土木工事業、上下水道工事業、とび・土工、
コンクリート工事業、機械器具設備工事業、
建設工事業に係る全ての事業活動

③対象事業所

- ・芸濃リサイクルセンター：三重県津市芸濃町棕本 3550 番地

3.環境宣言

環 境 宣 言

基本理念

株式会社 芸濃は、地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、全組織を挙げて環境負荷の低減及び環境保護に努力します。

方針

株式会社 芸濃は、産業廃棄物の収集運搬業務（積替え保管を含む）及び産業廃棄物中間処理業務に係わる全ての活動、製品及びサービスの環境影響を低減するために、次の方針に基づき環境マネジメント活動を推進して地球環境との調和を目指します。

1. 当社の活動、製品及びサービスに係わる環境影響を常に認識し、環境汚染の予防及び環境保護を推進するとともに、環境マネジメント活動の継続的改善を図ります。
なお環境保護には、持続可能な資源の利用、気候変動の緩和及び気候変動への適応、並びに生物多様性及び生態系の保護などを含みます。
2. 当社の活動、製品及びサービスに係わる環境関連の法的及びその他の要求事項を順守します。
3. 当社の活動、製品及びサービスに係わる環境影響のうち、以下の項目を環境管理重点テーマとして取り組みます。
 - (1) リサイクル率の向上
 - (2) 廃棄物適正処理の推進（分別方法の指導・提案）
 - (3) 廃棄物の処理量当たりの電力使用量削減
 - (4) 廃棄物の処理量当たりの燃料使用量削減
 - (5) 緑化活動
4. 一人ひとりが環境影響改善活動を積極的に実践できるように、この環境宣言を組織の全員に周知するとともに一般の人々が入手できるようにします。
5. 三重県及び津市の環境改善活動に積極的に参画します。

上記の方針達成のために、環境改善目標を設定し、定期的に見直し環境マネジメントシステムを推進します。

制定日 2012年 6月 1日

改訂日 2018年 4月 1日

株式会社 芸濃

代表取締役 楠井 隆

4.環境改善目標

2018 年度以降 3 年間の環境改善目標と実績（基準年度：2017 年）

No	環境改善目標		単位	2017 年度 実績		目標値		
						2018 年度	2019 年度	2020 年度
1	リサイクル （資源化）率 2017 年実績値 の維持管理	0.999 （受入産業廃棄物 量・中間処理後の 残渣）÷受入産業 廃棄物量	率	0.999	目標	0.999	0.999	0.999
					実績	0.999	0.999	
2	分別方法の 提案・指導件数	年 60 件	件	60	目標	60 件	60 件	60 件
					実績	60	60	—
3	廃棄物の処理 量当たりの 電力使用量 削減	（電力使用量÷ 処理ガラ）	kWh/ t	2.136	目標	0.75%削減 （2.119）	1.5%削減 （2.103）	2.0%削減 （2.093）
					実績	1.689	2.679	
	基準年度比 2.0%削減	電力使用量 （管理項目）	kWh	111403	実績	102367	96358	
4	廃棄物の処理 量当たりの 燃料使用量 削減	（燃料使用量÷ 処理ガラ）	ℓ/ t	2.256	目標	0.75%削減 （2.239）	1.5%削減 （2.222）	2%削減 （2.210）
					実績	1.775	3.067	
	基準年度比 2.0%削減	燃料使用量 （管理項目）	ℓ	117651	実績	114922	110291	
5	緑化活動	年 1 本 植樹	本	—	目標	1	1	1
					実績	1	1	

削減率；基準年度比

※中部電力の CO₂排出係数 0.458 kg・CO₂/kWh（2018 年度）

経済産業省・環境省の軽油排出係数 2.619 kg・CO₂/ℓを参照

※国土交通省間接リサイクル推進計画 2014 目標値の平成 30 年度目標 99%以上の維持を適用（弊社リサイクル製品は建設リサイクルにおける用途が多いため）

- ・総排水量及び水の使用量においては生活排水のみの為、管理項目として環境改善には含まないが、管理項目として使用量を管理している。

(収集運搬者の洗車や破碎施設の粉塵防止策の場内散水には、雨水（溜池）を使用している。)

- ・産業廃棄物の排出量は環境改善目標に含まれていないが、管理項目として排出量を管理しており、排出量としては前年度を上回っていた。

(今年度は、基準年度比の 24%増で、32.54 t であった)

※化学物質についてはその使用実績がありません。

5.環境改善目標と実績

(基準年度：2017年度)

2019年度 環境改善活動実績 (2019年4月～2020年3月)

No	環境改善目標	具体的施策	項目	単位	目標値	実績値	評価
1	リサイクル (資源化) 率 2017年度 実績値の維持管理	排出事業者への分別 指導 分別・選別作業の 効率化 処分先へのコンテナ 設置、3Sの徹底	受託した産業 廃棄物の 処理量	率	0.999	0.999	A
2	分別方法の提案・ 指導件数の向上	分別方法の改善 廃棄物の再利用 コンテナ設置の推進	提案・指導 件数	件	60	60	A
3	廃棄物の処理量 当たりの 電力使用量削減 基準年度比 (0.75%削減)	手元作業員との連携 設備の効率運転 3Sの徹底	電力使用量÷ 処理ガラ	kWh/t	2.103	2.679	C
			電力使用量 (管理項目)	kWh	—	96358	—
4	廃棄物の処理量 当たりの 燃料使用量削減 基準年度比 (0.75%削減)	手元作業員との連携 設備の効率運転 3Sの徹底	電力使用量÷ 処理ガラ	ℓ/t	2.222	3.067	C
			電力使用量 (管理項目)	ℓ	—	110291.96	—
5	緑化活動	計画の策定 植樹の実施 今年度の実施内容の 評価	地域社会の 環境問題	本	1	1	A

評価記号 A:良好 (100%以上) B:やや不足 (90～100%) C:不適合 (90%以下)

管理項目での実績（2019 年度）

No	管理項目での 実績	具体的施策	単位	実績値 (2017 年)	実績値 (2018 年)	実績値 (2019 年)
1	水の使用量削減	洗車時の節水励行	m ³ /年	241	263	244

産業廃棄物の排出実績（2019 年度）混合廃棄物換算値（0.26 t /m³）

産業廃棄物の種類	単位	2017 年度	2018 年度	2019 年度
混合廃棄物(ミンチ)	t	27.40	15.85	12.01
混合廃棄物	m ³	51.5 (13.39 t)	40.0 (10.40 t)	56 (14.56 t)
合 計	t	40.79	26.25	26.57

電力・燃料の使用による二酸化炭素排出量（小数点以下切捨て）

	単位	2017 年度	2018 年度	2019 年度
電力使用量	kWh	111403	102367	96358
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	51022	46884	44132
燃料使用量（軽油）	ℓ	117651	114922	110292
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	308127	300981	288854
二酸化炭素総排出量 （電力+燃料）	kg-CO ₂	359149	347865	332986

※中部電力の CO₂排出係数 0.458 kg-CO₂/kWh（2018 年度）

経済産業省・環境省の軽油排出係数 2.619 kg-CO₂/ℓを参照

グリーン購入（グリーン購入商品調査・社員へのグリーン購入促進）

	単位	2017 年度	2018 年度	2019 年度
グリーン購入	件	4	4	4

5.1 具体的環境活動の評価（2019 年度実績に対する評価）

- ・リサイクル率の向上においては、目標値を達成している。
- ・分別方法の提案・指導件数の向上では目標を達成している。
- ・電力使用量の削減の項目については未達成となったが、電力量の総量では昨年度より削減している。今年度の未達成の原因はがれき類の入荷量が前年度より 20000 t 程度少なかった為、目標設定時の入荷数量を基準にしている為このような結果になったと考えられる。
- ・燃料使用量の削減の項目については未達成となった。電力の目標同様がれき類の入荷が少なかったためにこのような結果となったと考えられる。
- ・敷地内の緑化活動では、境界側に桜の木を 1 本植樹した。今後も継続していきたい。
- ・管理項目である水の使用量では昨年より若干増加したが、無駄な使用が無いように、削減に努める。
又、自社排出の廃棄物は、26.57 t と昨年より微増した。
- ・二酸化炭素総排出量は、昨年に比べ 5%削減することが出来た。今後も削減できるよう活動していく。

5.2 2020 年度の活動及び今後の課題

- ・がれき類の入荷については他力本願の要素が大きいため、目標設定を 3 カ年の実績値を平均したものを、3 カ年実績が出揃ってから翌 3 カ年の目標値を設定しなおすというような方法に変更することを検討していく。

6.環境関連法規の順守状況

- ・ 当社の事業活動に制約を受ける環境関連法規制等については、順守状況を定期的に確認し、評価の結果適正に順守されており、違反はありません。
なお、関係機関等からの指摘・苦情・訴訟はありません。

7.最高責任者による全体の評価見直しの結果

7.1 全体評価

今年度は周辺地域での公共事業の発注や、民間企業の投資等が少なかったため、がれき等の入荷が少なく電力、燃料の目標項目が未達成となった。
しかし、電力量や燃料量は減少している。

7.2 見直し評価

2020 年は 3 カ年目標の最終年である為、今年度の実績値が出揃った後に翌 3 カ年の目標値を設定しなおす。

8.コミュニケーション

プラント周辺の清掃活動を自主的に行った（毎月 1 回）

以上